子どもたちにプレゼントを持ってくる魔女

# 年越しはスプマンテで乾杯 聖ルチア・魔女ベファーナ

音楽ジャーナリスト
中　東生

イタリアの年越しは、新年に向けてのカウントダウンで盛り上がり、年を越した瞬間にスプマンテ（発泡性ワイン）で乾杯します。ヴェネツィアの細い小道を歩いていたとき、シャンパングラスが降ってきたのには驚いたものです。

元日のお昼に家族でごちそうを食べるとお正月気分が終わってしまうので味気ないのですが、本当に「年末年始」が終わるのは1月6日ベファーナの日でしょう。この日を境に、日常が戻ってきます。

ベファーナとは、子どもたちがぶら下げた靴下に、良い子にはプレゼントを、悪い子には石炭を入れていくという魔女のことです。魔女に変装した人がお菓子を持って来てくれる幼稚園や保育園もあります。

クリスマスプレゼントを持ってくるのもサンタクロースではなく、ベファーナ。12月13日前後に聖ルチアがプレゼントを届けに来る地方もあります。

## 保育園少なく働くママに厳しい環境

イタリアでは1割しか公立保育園に通えないという統計もあり、働くママたちに不安感を与えています。EU法では3歳以下の幼児の33%が保育園に通える環境を定めており、2017年に新しくなったイタリアの法令でも強調されています。

実際21州のうちの14州は基準を超えていますが、地方によっては3%弱という州もあります。実感としては保育園に入れない危機感のほうが、統計の数字より強く感じられます。

6歳になると小学校（5年制）に上がりますが、学校は同じ地区でも割り当て制になっており、午前中で終わる週休1日の場合は、お昼ご飯から午後の子どもたちの居場所がなく、働くママを悩ませます。全日制の学校に割り当てられた場合は、できたものが届けられ、学校ではそれを温めて最後の味付けをするだけのようです。

## 母「マンマ・イタリアーナ」祖母は家庭で陰の立役者

「14歳までの子どもは独りにしない」と法律で定められているので、いずれの学校においても登下校時の送り迎えが必要となり、最終的には母（義母）がそばにいないと、子どもをもって働くのは、不可能に近い状況です。

また、夏休みも6月中旬（幼稚園は7月）から9月中旬まで約3カ月続くため、母親がヴァカンスをとれない期間の子どもの居場所を確保するには、祖母に頼るしかないのです。

イタリアの母「マンマ・イタリアーナ」は、昔から家庭での陰の立役者として強い存在した。現在でも子どもをもちながら働く女性は困難な状況なので、ベファーナが来るのを楽しみにしている子どもたちを見ると、核家族を陰で支えているおばあちゃんの姿がダブって見えてくるのです。

Profile
中 東生（なか しのぶ）：東京芸大卒業後イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院に留学。著名な音楽家のインタビューをはじめ、音楽専門誌やコンサートプログラム、CDのブックレット執筆を主に欧州の音楽、文化、生活情報も発信。日欧文化交流企画も手掛けている。